



F/T09

フェスティバル / トーキョー

PRESS RELEASE

／ 開催概要

- 名称** フェスティバル/トーキョー09 春
Festival/Tokyo 09 spring
- 会期・会場** 2009年2月26日(木)～3月29日(日)
東京芸術劇場 中ホール 小ホール 1・2
あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター)
にしすがも創造舎
- プログラム** F/T パフォーマンス 14 演目
F/T 参加作品 5 演目
F/T プロジェクト(シンポジウム/ステーション/クルー)
- 主催** 東京都
財団法人東京都歴史文化財団
フェスティバル/トーキョー実行委員会
豊島区、財団法人としま未来文化財団、NPO 法人アートネットワーク・ジャパン
- 共催** 社団法人国際演劇協会(ITI/UNESCO)日本センター
- 事業共催** 国際交流基金
- 協賛** アサヒビール株式会社、株式会社資生堂
- 助成** 財団法人アサヒビール芸術文化財団
- 後援** 外務省、社団法人日本芸能実演家団体協議会、社団法人日本劇団協議会
- 協力** 東京商工会議所豊島支部、豊島区商店街連合会、豊島区町会連合会、
豊島区観光協会、社団法人豊島産業協会、社団法人豊島法人会
- 宣伝協力** 株式会社ポスターハリス・カンパニー
- 平成 20 年度文化庁国際芸術交流支援事業
- 提携事業** 東京芸術見本市 2009

／ 開催趣旨

東京都、財団法人東京都歴史文化財団およびフェスティバル/トーキョー実行委員会(豊島区、財団法人としま未来文化財団、特定非営利活動法人アートネットワーク・ジャパン)は、舞台芸術ならではの力やアーティストの豊かな想像力を助けに、強いコミュニケーションやリアルな体験の場をはぐくみ、東京から新しい文化の波を生み出すべく、東京文化発信プロジェクトの一環として、ここに新たな舞台芸術の祭典、フェスティバル/トーキョーを開催する運びとなりました。

記念すべき第一回は、2009年2月26日から3月29日の約1か月間、池袋・豊島エリアにある東京芸術劇場、あうるすぽっと、にしすがも創造舎の3拠点をメイン会場として開催します。世界の最先端から日本のリアルを体現するものまで全19演目、約130公演がフェスティバルを彩ります。このうち半数以上の9演目は新作、うちフェスティバルの製作・共同製作作品は6演目に上り、まさに東京から世界へ向けて、あらたなる創造と発信の大きな第一歩を踏み出すこととなります。

また、演目の上演以外にも、多彩な関連プログラムを実施します。池袋西口公園では、地域との協働のもとフェスティバル・ステーションを運営し、ゆるやかな交流の場を出現させるほか、シンポジウムやトークなど関連プログラムも多数実施し、参加者ひとりひとりがフェスティバルという特別の時間を共有できる機会を充実させてまいります。

私たちはこのフェスティバルの開催を通じて、同時代のアーティストの皆様、そしてそこに参加するすべての皆様とともに、次の時代を切り拓く新しい価値の創造に着手し、国際都市トーキョーから世界に向けた創造と発信を推進していきます。

フェスティバル/トーキョー 主催者一同

東京文化発信プロジェクトとは

東京文化発信プロジェクトとは、東京ならではの芸術文化の創造・発信、芸術文化を通じた子どもたちの育成を目的として、東京都と東京都歴史文化財団が芸術文化団体等と協力して実施するもので、演劇、音楽、伝統芸能、美術など様々な分野で文化イベントを展開していきます。

東京は、世界に通用する日本の伝統文化である浮世絵や歌舞伎などをはぐくみ、今も身近に実体験できる都市です。また近年では、様々なアーティストたちによる文化芸術の創造拠点になっているほか、アニメーションに代表されるポップカルチャーを次々と世界へ送り出しています。

東京が2016年のオリンピック・パラリンピック開催の立候補都市に承認された今、あらためて「文化芸術創造都市」であることを、創造活動とその成果の発信を通じて、国内だけでなく世界に強くアピールしていきます。ぜひ東京文化発信プロジェクトに参加し、東京文化を体験・創造してみませんか。

／ フェスティバル/トーキョー コンセプト

フェスティバル/トーキョー
プログラム・ディレクター
相馬千秋

ここに誕生するフェスティバルは、フェスティバル/トーキョーという。スラッシュでつながれた「フェスティバル」と「トーキョー」。その間には、いくつもの関係性を想像することができる。フェスティバル・アンド・トーキョー、フェスティバル・オア・トーキョー、フェスティバル・オブ・トーキョー、フェスティバル・イン・トーキョー、フェスティバル・フォー・トーキョー、フェスティバル・アバウト・トーキョー、フェスティバル VS トーキョー、フェスティバル・ビヨンド・トーキョー……その答えは、このフェスティバルに参加するすべての人の問いかけと同じ数だけ存在する。フェスティバル/トーキョーは、ちょうどこのスラッシュが象徴するような多様な関係、決して単純化することができない二つのものの“つながり”を共に想像し、議論し、共有する場でありたい。その交換と対話のプロセスから、あたらしい価値を生み出していく「場」としてのフェスティバル。それが、ここに誕生するフェスティバル/トーキョーの基本となるコンセプトである。

ここに世界中から集う同時代のクリエイションは、そうした「場」としてのフェスティバルに、たくましい想像力を持ち込み、ときにその場を過激に挑発し、ときに鮮烈に覚醒させるものであるに違いない。私たちがこの場で向き合おうとしている表現の多くは、ある特定の空間と時間だけの再現可能性を前提とする舞台芸術と呼ばれている。これだけメディアが多様化し、情報伝達が単純化・高速化する今日、「その場、その時間」を共有することでしか成立しない舞台芸術だけが伝えうるものとは何か？ そして、その力とはどういうものなのだろうか？ フェスティバル/トーキョーは、常にこの問いを自問する場でもある。

記念すべき第一回のプログラムは、こうしたフェスティバルの理念をそれぞれの手法で表現してくれるであろう 19 演目が集うことになった。フェスティバル/トーキョーが主催するものが 14 演目、同時期に都内の劇場で開催される参加作品が 5 演目。そのうちフェスティバル/トーキョーが主体となって制作(プロデュース)する作品が 3 作品、他の劇場・劇団等と共同製作(コ・プロデュース)する作品が同じく 3 作品、新作(クリエイション)が 9 作品となっている。実際には、アーティスト・出演者の数だけでも 300 名以上、スタッフやボランティアも入れると 500 名を超える人々がそれぞれに固有の表現を持ち寄ってくれることになる。

これらの演目が揃いフェスティバルの輪郭が見えてきたとき、「あたらしいリアルへ」というキーワードが生まれた。自分が生きる現実とどう向き合うか、それをどう描くか、そこからいかに超越するか、といった問いはそもそも芸術表現の普遍的テーマのひとつであるが、私たちと同時代につくられた作品には、その探求のしるしがいかに刻み込まれているのだろうか。フェスティバル/トーキョーに集まるすべての作品は、それぞれのアーティストが捉えたリアルを、さらに来るべき時代へと進化させようとする意思の結実ともいえる。ロメオ・カステルッチが描く世界は“生”の美しさと暴力性が共存するリアルであり、松井周が描く日常ではリアルが突如反転する。天児牛大の描く「少年の夢」は 30 年の時を超えてなお輝きを増す超越的リアルであろう。「いま・ここ」に集ったこれらの作品たちは、いかに私たちを「あたらしいリアル」へと導いてくれるのだろうか。

また今回のラインナップでは、プロフェッショナルな俳優ではない人々が舞台に登場することを一つの特徳とした作品群を集中的に上演する。蜷川幸雄率いるさいたまゴールド・シアターでは 55 歳以上の劇団

員たちが、鮎屋法水が演出する『転校生』では静岡に在住する現役女子高校生たちが、そしてミニ・プロトコルによる『カール・マルクス：資本論、第一巻』では実物の経済学者や革命家、労働者たちが、自らの実人生を背負いながら舞台に登場する。彼らのリアルな存在感は、舞台という特権的な場をどのように変容させるのだろうか。また高山明による『サンシャイン 63』では、すでにそこにある都市の風景や歴史が作品を構成し、観客ひとりひとりがパフォーマーとなる。このように現実のドキュメンタリー性を前提とした作品を集中的に上演することで、演劇と現実のあたらしい共犯関係を目撃することはできないだろうか。

一方、フェスティバルは発表(プレゼンテーション)の場だけではなく、創造(クリエイション)の場であるという明確な意図のもと、芸術的方向性を同じくする世界中のフェスティバルや劇場、劇団との連携により、共同製作による作品の創造・普及を推進していく。文化の多様性や表現そのものの価値を担保する新しい作品の創造とその世界的な普及に深くコミットすることで、世界と日本、あるいは地方と東京を繋ぐイニシアティブとしての役割を果たしていきたい。イ・ユンテク演出による日韓コラボレーション、平田オリザ、シルヴァン・モーリス、アミール・レザ・コヘスタニが3人で取り組む新作、井手茂太によるタイのダンサーたちとの共同作業は、それぞれのパートナー国での巡回公演を視野に入れた意欲的な国際共同によって実現する。さらに白井剛振付の新作では京都芸術センターと、松田正隆の新作では劇団マレビトの会との共同製作を行い、国内の劇場・劇団との共同製作の新たな形を提案したい。

さらに演劇系大学が集う「演劇/大学 09 春」では、各大学が育んだ才能・思想・プロセスを反映した作品を学外に向けて問い直し、共に議論することで、教育の現場から演劇そのものの未来を探っていく。またフェスティバルのメイン会場がある池袋西口公園では「場としてのフェスティバル」の理念を体現すべく、誰もが集まれるフェスティバル・ステーションを地域との共同で運営し、ゆるやかな対話の場を実現していく。ほかにもシンポジウムやトークなど多彩な周辺プログラムが毎日のように開催され、賑やかで濃密な1ヶ月になることだろう。

私たちが生きる今日の社会や都市が生む多様な問題意識や価値観がぶつかり合い、ときに共鳴しあい、ときに批評しあいながら、私たちの同時代に真にリアルなもの、真に切実なものを表現としてつむぎだしていく「磁場」のようなもの。それが、フェスティバル/トーキョーの理想形だ。そして、その場はすべての人に開かれている。そこにどれだけの実演者、参加者が集い、どれだけ強度な「その場、その時間」を共有することができるだろうか。その挑戦は、ここに誕生するフェスティバルにかかわるすべての人のアクションの中に、すでに始まっている。

相馬千秋

1975 年生まれ。1998 年早稲田大学第一文学部卒業後、フランスのリヨン第二大学院にてアートマネジメントおよび文化政策を専攻。現地のアートセンター等で経験を積んだ後、2002 年よりアートネットワーク・ジャパン勤務。東京国際芸術祭「中東シリーズ 04-07」をはじめ、国際共同製作による舞台作品や関連プロジェクトを多数企画・制作。06 年には横浜市との協働のもと新しい舞台芸術創造拠点「急な坂スタジオ」を設立、現在までディレクターを務める。07 年より早稲田大学演劇博物館グローバルCOE客員講師。東京国際芸術祭 2008 プログラム・ディレクターを経て、フェスティバル/トーキョーのプログラム・ディレクターに就任。

/ フェスティバル/トークショー プログラム

F/T パフォーマンス

- ①ヘルガルド・ハウグ、ダニエル・ヴェツェル(リミニ・プロトコル) / カール・マルクス:資本論、第一巻
- ②イ・ユンテク / オセロー
- ③高山明(Port B) / 雲。家。
- ④高山明(Port B) / サンシャイン 63
- ⑤松井周(サンプル) / 火の顔
- ⑥天児牛大(山海塾) / 金柑少年
- ⑦ロメオ・カステルッチ(ソチエタス・ラファエロ・サンツィオ) / Hey Girl!
- ⑧白井剛 / blue Lion
- ⑨井手茂太 / コウカシタ
- ⑩蜷川幸雄 さいたまゴールド・シアター / 95kgと97kgのあいだ
- ⑪松田正隆(マレビトの会) / 声紋都市ー父への手紙/Voiceprints CityーLetter to FATHER
- ⑫平田オリザ、アミール・レザ・コヘスタニ、シルヴァン・モーリス / ユートピア?
- ⑬飴屋法水 / 転校生
- ⑭演劇/大学 09 春

F/T 参加作品

- ⑮野田秀樹(NODA・MAP) / パイパー
- ⑯三浦大輔(ポツドール) / 愛の渦
- ⑰サイモン・マクバーニー / 春琴
- ⑱珍しいキノコ舞踊団 × plaplax / The Rainy Table
- ⑲笠井勲 / another BATIK

① 『カール・マルクス：資本論、第一巻』

演出：ヘルガルド・ハウグ、ダニエル・ヴェツェル
(リミニ・プロトコル)【ドイツ】



(c)Sebastian Hoppe

脱力系、革命エンゲキ？ アート界きっての戦略家集団リミニ・プロトコル、20 世紀のバイブル『資本論』を携え再上陸！

ドキュメンタリー演劇の手法で爆発的人気を誇るアーティスト集団リミニ・プロトコル。08 年東京公演でも大旋風を巻き起こした『ムネモパーク』に続いて早速の再来日、テーマは大胆にも、20 世紀を変えた究極のベストセラー『資本論』。舞台上には、この本とともに社会主義/資本主義のただ中で人生を歩んできたホンモノの経済学者、革命家、労働者らが登場。『資本論』が世界にもたらした現実が、フツウの人々の実人生から暴かれる？ 今回は日本人キャストも交えた東京オリジナル・バージョン！

公演日：2 月 26 日(木)～3 月 1 日(日)

会場：にしすがも創造舎

2/26(木)	2/27(金)	2/28(土)	3/1(日)
19:30	19:30	14:00/19:30	17:00

料金：全席自由 一般 4,500 円/学生 3,000 円(要学生証提示)、高校生以下 1,000 円

チケットお取扱い：フェスティバル/トーキョー、ぷれいす、電子チケットぴあ、イープラス

※F/T回数券(3 演目/5 演目)、F/Tパス、ペアチケットあり。12 月 18 日(木)前売り開始(詳細は p38)

特別協力・助成：ドイツ文化センター

後援：ドイツ大使館



/ アーティスト・プロフィール

ヘルガルド・ハウグ / ダニエル・ヴェツェル(リミニ・プロトコル)



(c) Rimini Protokoll/Hanna Lippmann

リミニ・プロトコルは、ギーセン大学応用演劇学科で出会ったヘルガルド・ハウグ(1969 生)とダニエル・ヴェツェル(1969 生)、シュテファン・ケーギ(1972 生)の 3 人によるアートプロジェクト・ユニット。2000 年、フランクフルトで結成された。お互いが独立し、個人のプロジェクトを発表している一方で、メンバーの 2 人、もしくは 3 人のプロジェクトも多く発表している。

結成以降、特に公共空間におけるパフォーマンスやドキュメンタリー演劇の手法を用いた型破りなプロジェクトの数々で世界の注目を集めている。彼らの作品の出演者はプロの俳優ではなく、あるテーマに関して特別な経験や知識を持っている一般の人々。稽古前に行われるリサーチあるいはキャスティングのプロセスが、実に作品創作の 2/3 を占める。このように、現実を演劇的に描くのではなく、ある現実をそのまま舞台上にあげるという驚くべきシンプルな手法によって、リミニ・プロトコルはヨーロッパで爆発的人気を誇っている。

2004 年以後はベルリンのヘッベル劇場を拠点としながらも、世界中で精力的にプロジェクトを展開中。

② 『オセロー』

演出：イ・ユンテク【韓国】



(c)LEE Do-hee

**シェイクスピア『オセロー』×日本の夢幻能形式×韓国シャーマニズム。
韓国カリスマ演出家が挑む壮大な試みが、日本凱旋公演！**

平川祐弘が謡曲台本に翻案した『夢幻能 オセロー』（宮城聰の演出にてク・ナウカ シアターカンパニーが2005年に初演）。今回は韓国現代演劇界を代表する演出家、イ・ユンテクの演出のもと美加理、阿部一徳、大高浩一、キム・ミスク、イ・スンホンなど、日韓俳優が共演！また、音楽には、鬼太鼓座、ウォン・イル、加藤訓子が結集。不貞を疑われオセローに殺された妻デズデモーナ。思い出の中で生き続ける彼女の霊が本当に伝えたかったこととは？

公演日：2月27日（金）～3月1日（日）

会場：東京芸術劇場中ホール

上演時間：約80分（予定）

2/27(金)	2/28(土)	3/1(日)
19:00	17:00	14:00

料金：全席指定 一般 4,500 円(S 席) 3,500 円(A 席)/学生 3,000 円(要学生証提示)、高校生以下 1,000 円

お取り扱い：フェスティバル/トーキョー、ぷれいす、電子チケットぴあ、イープラス

※F/T回数券(3 演目/5 演目)、F/Tパス、ペアチケットあり。12 月 18 日(木)前売り開始(詳細は p38)

製作：フェスティバル/トーキョー

/ アーティスト・プロフィール

イ・ユンテク



詩人、劇作家、演出家。1986年、演劇団コリペを旗揚げ。批評、劇作、映画やテレビドラマ脚本、コラムなどの豊富なキャリアとともに、劇作、演出、俳優訓練の第一人者として韓国演劇界を代表する存在となる。1994年、自らの俳優訓練、演劇論の実践の場として、ウリ劇研究所を設立。ドイツや日本での演技指導、韓国国立劇場国立劇団の芸術監督もつとめた。1999年以降、劇団は約50名の劇団員を擁し、韓国前衛演劇界を牽引する存在となっている。

現在、劇団コリペ芸術監督、東国大学教授。

韓国批評家協会最優秀芸術家賞(1989年)以来、ソウル国際芸術祭大賞(2001年)、韓国文化芸術賞(2002年)など受賞多数。

代表作：『市民K』『サンシッキム』『オグー死の儀式』『パボカクシー愛の儀式』『ハムレット』『問題的人間、燕山』『真如極楽』『田舎文士・曹南冥』『オモニ』『リア王』『群盗』『肝っ玉おっ母とその子どもたち』『原典物語』

③ 『雲。家。』

構成・演出：高山明（Port B） 作：エルフリーデ・イエリネク



(c) Kohei Matsushima

**テキストの集積と声、そして浮かび上がるサンシャイン。
「わたしたち」の存在を揺さぶる、Port B の代表作。**

Port B の 2 作品同時再演、『サンシャイン 63』と表裏の関係にある、ノーベル賞作家イエリネクの『雲。家。』。「家」を探し求める「わたしたち」のモノローグが紡がれる中、舞台上に浮かび上がるサンシャイン 60…。国家、民族、歴史、大地、故郷、身体、生と死。「わたしたち」という在り方を批判的に問う言葉は舞台上に現れては消える声となり、知覚と記憶を強く揺さぶり続ける。Port B の 代表作、バージョンアップしての再演。

公演日：3月4日（水）～7日（土）

会場：にしすがも創造舎

上演時間：約 80 分

3/4(水)	3/5(木)	3/6(金)	3/7(土)
19:30	19:30	19:30	17:00

料金：全席自由 一般 4,000 円/学生 3,000 円(要学生証提示)、高校生以下 1,000 円

お取扱い：フェスティバル/トーキョー、ぷれいす、電子チケットぴあ、イープラス

※F/T回数券(3 演目/5 演目)、F/Tパス、ペアチケットあり。12 月 18 日(木)前売り開始(詳細は p38)。

Port B セット券『雲。家。』『サンシャイン 63』

¥6,400 (3,200/枚)ぷれいすのみ取扱 2 月 13 日(金)18:00 まで販売 (限定枚数)

/ アーティスト・プロフィール

高山明



1969 年生まれ。1994 年より渡欧。演出助手として研鑽を重ね、多数の舞台、オペラ等に携わりながら演出・戯曲執筆を行う。帰国後 2002 年ユニット Port B (ポルト・ビー) を結成。演劇を専門としない表現者たちとの共同作業によって、既存の演劇の枠組を超えた前衛的な作品を次々と発表。創作の拠点「にしすがも創造舎」がある池袋・巣鴨一帯では、サンシャイン 60 が象徴する日本戦後史を巡る 3 部作として、舞台作品『雲。家。』、ツアーパフォーマンス『サンシャイン 62』、演劇的インスタレーション『荒地』を発表し、演劇界のみならず現代アートの文脈からも大きな注目を集めた。現実の都市や社会に存在する記憶や風景、メディアなどを引用し再構成しながら作品化する手法は、「来るべきもの」としての現代演劇の可能性を提示する試みとして、国内はもとより海外のフェスティバルや美術展でも大きな注目と期待を集めている。

④ 『サンシャイン 63』

構成・演出：高山明（Port B）



(c) Kohei Matsushima

**演劇の枠を超えた、まちあるきパフォーマンス。
“戦後史のランドマーク”サンシャイン 60 周辺を巡る「時のツアー」。**

舞台公演のみならず、“ツアー・パフォーマンス”やインスタレーションなど演劇を越境する試みで注目を集める高山明と Port B。F/T では、これまでの活動の集大成として代表作 2 作品を再創造・同時再演。その一方が『サンシャイン 63』。第二次世界大戦後、巣鴨プリズン跡地に建てられた池袋サンシャイン 60 周辺を 5 人一組の観客が巡る。日本の戦後と“いま”を参加者一人一人がたどる“時のツアー”。

公演日：3 月 4 日（水）～8 日（日）、11 日（水）～15 日（日）

池袋周辺地域

3/4（水）	3/5（木）	3/6（金）	3/7（土）	3/8（日）
11:00～15:00	11:00～15:00	11:00～15:00	11:00～15:00	11:00～15:00

3/11（水）	3/12（木）	3/13（金）	3/14（土）	3/15（日）
11:00～15:00	11:00～15:00	11:00～15:00	11:00～15:00	11:00～15:00

※5 人一組のグループで 20 分おきに出発[各日 13 組/65 名]。 ※各組全 3 時間半ほどのツアー・パフォーマンス。

料金：一般 4,000 円/学生 3,000 円（要学生証提示）、高校生以下 1,000 円（予約のみ取扱）

チケットお取扱い：フェスティバル/トーキョー、ふれいす ※12 月 18 日（木）前売り開始（詳細は p38）

Port B セット券『雲。家。』『サンシャイン 63』

¥6,400（3,200/枚）ふれいすのみ取扱 2 月 13 日（金）18:00 まで販売（限定枚数）

/ アーティスト・プロフィール

高山明



1969 年生まれ。1994 年より渡欧。演出助手として研鑽を重ね、多数の舞台、オペラ等に携わりながら演出・戯曲執筆を行う。帰国後 2002 年ユニット Port B (ポルト・ビー) を結成。演劇を専門としない表現者たちとの共同作業によって、既存の演劇の枠組を超えた前衛的な作品を次々と発表。創作の拠点「にしすがも創造舎」がある池袋・巣鴨一帯では、サンシャイン 60 が象徴する日本戦後史を巡る 3 部作として、舞台作品『雲。家。』、ツアーパフォーマンス『サンシャイン 62』、演劇的インスタレーション『荒地』を発表し、演劇界のみならず現代アートの文脈からも大きな注目を集めた。現実の都市や社会に存在する記憶や風景、メディアなどを引用し再構成しながら作品化する手法は、「来るべきもの」としての現代演劇の可能性を提示する試みとして、国内はもとより海外のフェスティバルや美術展でも大きな注目と期待を集めている。

⑤ 『火の顔』

演出：松井周（サンプル） 作：マリウス・フォン・マイエンブルグ



design by kyo, photo by Naoaki Yamamoto

**“反転するリアル”を描く日本演劇界の新世代・松井周、
ドイツ気鋭の劇作家が描く「現代の狂気」に挑む！**

演劇におけるリアリズムを問い直し続け、その強烈な同時代性によって注目を集める日本の若手劇作家・演出家・松井周が、2005年のドイツ・シャウビューネ劇場来日公演が記憶に新しいマリウス・フォン・マイエンブルグ作『火の顔』を演出。

父、母、姉、弟、一見何不自由なく暮らしている家族の元に姉の恋人が訪れ、家族の平衡が崩れ始める。自傷、引きこもり、親殺し—現代社会に蔓延する狂気に、さまよう現代人の新たな「リアル」が浮かび上がる。

公演日：3月5日（木）～8日（日）

会場：東京芸術劇場小ホール1

3/5（木）	3/6（金）	3/7（土）	3/8（日）
19:00	14:00/19:00	14:00/19:00	15:00

料金：全席自由 一般 3,500円/学生 3,000円（要学生証提示）、高校生以下 1,000円

お取り扱い：フェスティバル/トーキョー、ぷれいす、電子チケットぴあ、イープラス

※F/T回数券（3演目/5演目）、F/Tパス、ペアチケットあり。12月18日（木）前売り開始（詳細は p38）。

製作：フェスティバル/トーキョー

/ アーティスト・プロフィール

松井周(サンプル)



(C) Tsukasa Aoki

1972 年東京都生まれ。劇団「サンプル」主宰。96 年に俳優として劇団「青年団」に入団。『東京ノート』『S 高原から』など同劇団の代表作に数多く出演。俳優活動を続けながら戯曲を執筆し、青年団若手自主企画公演『通過』(処女作)、『ワールドプレミア』(二作目)が日本劇作家協会新人戯曲賞に入賞。『地下室』、青年団リンク・サンプル公演『シフト』を経て、2007 年 9 月『カロリーの消費』で正式に劇団「サンプル」を旗揚げ。その作品世界は、価値を反転させることと空間・身体・時間の可能性を探り続けることを特徴とする。08 年には、文学座+青年団自主企画交流シリーズにて、初めて自作以外の戯曲、サラ・ケイン作『パイドラの愛』を演出している。

その他、小説の執筆や大学講師など、幅広い活動を行っている。

⑥ 『金柑少年』

演出・振付・デザイン:天児牛大(山海塾)



(c)Sankai Juku

**1978年の初演以来、世界20ヶ国以上で上演を重ねた山海塾の記念碑的作品。
リ・クリエーションを経て、3年ぶりの東京公演！**

千数百匹のマグロの尻尾が壁一面に打ちつけられた舞台。鮮明に、そして強烈に舞台上で展開される「生と死の起源を巡る少年の夢」。初演からリ・クリエーションを経て、30年という年月を重ねた山海塾の歴史的傑作。オリジナルの振付は若手舞踏手たちに受け継がれ、作品はなおも新しい領域へと歩み続ける。

公演日:3月7日(土)~8日(日)

会場:東京芸術劇場中ホール

上演時間:1時間40分

3/7(土)	3/8(日)
19:00	13:00、18:00

料金:全席指定 一般 4,500円(S席) 3,500円(A席) /学生 3,000円(要学生証提示)、高校生以下 1,000円

お取扱い:フェスティバル/トーキョー、ぷれいす、電子チケットぴあ、イープラス

※F/T回数券(3演目/5演目)、F/Tパス、ペアチケットあり。12月18日(木)前売り開始(詳細はp38)。

/ アーティスト・プロフィール

天児牛大(山海塾)



(c) Yuji Arisugawa

1949年横須賀市生まれ。75年に山海塾を創設。80年より海外ツアーを開始し、あらゆる文化圏で絶大な支持を得る。81年より、フランスおよびパリ市立劇場を創作の拠点とし、82年からはおよそ2年に1度のペースで、同劇場にて作品を発表。

演出・振付のみならず、空間や衣裳デザイン等を総合的に手がけ、現在まで、世界43ヶ国で上演を重ねる。主な受賞作として、02年『ひびき』が第26回ローレンス・オリヴィエ賞・最優秀新作ダンス作品賞受賞。07年『とき』が第6回朝日舞台芸術賞グランプリ受賞など。

山海塾以外では、『風姿』(88年)、『アポカリプス』(89年)、『フィフス-V』(90年)等の作品を手がけるほか、97年に東京でのバルトークのオペラ『青ひげ公の城』を演出以降、ペーター・エトヴェシュによる新作オペラ『三人姉妹』(98年)および“Lady SARASHINA”(08年)を、リヨン国立歌劇場にて演出する等、幅広く活躍。なおエトヴェシュとの両オペラ作品では、共にフランス批評家協会最優秀賞を受賞。

⑦ 『Hey Girl!』

演出：ロメオ・カステルッチ(ソチエタス・ラファエロ・サンツィオ)【イタリア】



(c) Francesco Raffaelli

**比類なき造形美と、“生”の深淵に触れる奇跡の象徴演劇一。
異才カステルッチ、満を持しての初東京公演！**

08年アヴィニオン演劇祭でのダンテ神曲3部作など、次々に傑作を発表し世界を震撼させるイタリアの異才ロメオ・カステルッチ。一度見たら忘れられない強烈なイマージュと比類なき造形美によって、“生”の力強さや残忍さ、人間存在のゆらぎをも舞台空間に出現させる才能は、他の追隨を許さない。その代表作『Hey Girl!』では、思春期の少女に去来する戸惑いや葛藤が、聖母マリア、ジュリエット、ジャンヌ・ダルクなど、無数の「女」の記号の中に静かに反射する。

公演日：3月10日(火)～14日(土)

会場：にしすがも創造舎

上演時間：75分

3/10 (火)	3/11 (水)	3/12 (木)	3/13 (金)	3/14 (土)
19:30	19:30	19:30	19:30	14:00

料金：全席自由 一般 4,500円/学生 3,000円(要学生証提示)、高校生以下 1,000円

お取扱い：フェスティバル/トーキョー、ぷれいす、電子チケットぴあ、イープラス

※F/T回数券(3演目/5演目)、F/Tパス、ペアチケットあり。12月18日(木)前売り開始(詳細はp38)。

特別協力：イタリア文化会館

後援：イタリア大使館



/ アーティスト・プロフィール

ロメオ・カステルッチ(ソチエタス・ラファエロ・サンツィオ)



(c)Societas Raffaello Sanzio

1960年にチェゼーナ(イタリア)生まれ。ボローニャの芸術アカデミーでセノグラフィと美術を専攻。1981年にクラウディア・カステルッチとキアラ・グィディーと共にソチエタス・ラファエロ・サンツィオを設立。演劇、音楽、美術、映像、マシーンなどあらゆる芸術表現・技術を横断する独自の世界を構築。1990年代の歴史と悲劇を主題とした作品群(『ハムレット』1992年、『オ레스テア』1995年、『ジュリオ・チェザーレ』1997年、『創世記』1999年)によって国際的に高い評価を確立。2001年から2004年にかけてはヨーロッパの10都市において、著名な劇場やフェスティヴァルとの共同制作により『トラジェディア・エンドゴニディア』シリーズとして、11ものエピソードと呼ばれる作品群を各地で制作・上演。2008年にはアヴィニオン演劇祭のアソシエート・アーティストとして、ダンテの『神曲』に着想を得た三部作(『地獄篇』、『煉獄篇』、『天国篇』)を一挙に発表し成功を収めるなど、そのゆるぎない才能は今日の芸術界でも傑出した存在となっている。

⑧ 『blue Lion』

構成・演出・振付：白井剛



(C)Yujiro Sagami

ダンスと他者、ダンスと音楽、ダンスと言葉。

“ダンスツルギー”(=ダンスの振付方法)の発明に挑む、白井剛 2 年ぶりの新作！

振付家の登竜門トヨタ・コレオグラフィーアワード 2006 で最高賞を受賞した白井剛が、京都芸術センターの招きにより 2 ヶ月間京都での滞在制作を行い、2 年ぶりとなる新作を発表。クラシック、ジャズ、エレクトロニカなど出自もさまざま、ジャンルレスなミュージシャンによるライブ演奏を交え、振付家としても独自の作品世界を展開する寺田みさこ、鈴木ユキオといった実力派ダンサーを得て、テキストと音楽、そして身体を横断する“振付”の発明に挑む。

公演日：3 月 13 日(金)～15 日(日)

会場：東京芸術劇場小ホール1

3/13(金)	3/14(土)	3/15(日)
19:00	14:00/19:00	14:00

料金：全席自由 一般 4,000 円/学生 3,000 円(要学生証提示)、高校生以下 1,000 円

お取扱い：フェスティバル/トーキョー、ぶれいず、電子チケットぴあ、イープラス

※F/T回数券(3 演目/5 演目)、F/Tパス、ペアチケットあり。12 月 18 日(木)前売り開始(詳細は p38)。

製作：京都芸術センター「演劇計画 2008」

共同製作：フェスティバル/トーキョー

助成：財団法人セゾン文化財団

/ アーティスト・プロフィール

白井剛



(c)Ryou Shirai

1976年、長野県飯田市生まれ。96年～2000年、ダンスカンパニー「伊藤キム+輝く未来」の作品に出演。98年、「Study of Live works 発条ト(ばねと)」の設立に参加。バニョレ国際振付賞、トヨタ・コレオグラフィーアワードにて「次代を担う振付家賞」、第一回日本ダンスフォーラム賞など数々の賞を受賞。05年、伊藤キム振付『禁色』(原作:三島由紀夫)へダンサーとして出演。06・07年、現代音楽カルテット「アルデッティ弦楽四重奏団」とのコラボレーション公演を国内6都市にて行う。06年より、新型ユニット「AbsT」を設立し、07年2月、新作『しはに-subsoil』を発表。07年8月、5人の音楽作曲家たちとのコラボレーション作品『THECO-ザコ』を発表。

⑨ 『コウカシタ』

振付: 井手茂太



**日常の身振りを取り入れたユニークな振付の第一人者、
井手茂太のサプライズ満点の新機軸！トーキョー/バンコク**

イデビアン・クルー主宰、井手茂太が、ユーモアセンスが光る独自の視点とオリジナリティあふれる振付で今回コラボレーションするのは、伝統と現代が混在・融合し独特の魅力を放つ国、タイ。井手自身がバンコクに赴き 76 名の中から選んだダンサーと日本人ダンサーのスペシャルチームにより、文化的なズレや差異を逆手にとった、それぞれから見たトーキョー、バンコクの現在(いま)を描きだす！

公演日: 3月14日(土)～20日(金)

会場: あうるすぽっと

3/14(土)	3/15(日)	3/16(月)	3/17(火)	3/18(水)	3/19(木)	3/20(金)
17:00	17:00	19:00	19:00	休演	19:00	14:00

料金: 全席指定 一般 4,500 円/学生 3,000 円(要学生証提示)、高校生以下 1,000 円

お取り扱い: フェスティバル/トーキョー、ぷれいす、電子チケットぴあ、イープラス

※F/T回数券(3 演目/5 演目)、F/Tパス、ペアチケットあり。12月18日(木)前売り開始(詳細は p38)。

主催・製作: フェスティバル/トーキョー

共催: 国際交流基金

後援: タイ王国大使館、日メコン交流年 2009

 国際交流基金



/ アーティスト・プロフィール

井手茂太



既存のダンススタイルにとらわれない自由な発想で、日常のささいな遊び心を大切にダンスに取り組む。集団の中のコミュニケーションをモチーフに、日常的な身振りや出演者の個性を活かした動きなど、オリジナリティのある振り付けで注目される。また、群舞や無音の中で少ない動きによって生まれる間合いの美しさなどが作品の特徴で、空間的・時間的な構成力には定評がある。現代美術家・椿昇や、音楽家・ASA-CHANG&巡礼など、異分野のアーティストとのコラボレーションにも取り組む。振付家に徹するため、ふだんカンパニーの作品に出演することはほとんどないが、すこぶるしなやかで弾力のあるその動きは観る者の目を離さず、ダンサーとしての注目度も高い。また、『AMERIKA』（松本修演出）、『クラウドディアからの手紙』（鐘下辰男演出）など、演劇やミュージカルなどダンス以外の作品にも多く携り、ダンサーではない役者の個性を生かしたユニークな振付などで高い評価を得ている。最近では、椎名林檎率いる東京事変 PV「OSCA」、NHK 教育「えいごであそぼ」、CM 等の振付。国外では英国のダンスカンパニー Diversions の作品など井手独自の振付は海外でも注目されている。

04 年、振付家として初めて読売演劇大賞優秀スタッフ賞を受賞。06 年、アサヒビール芸術賞受賞。07 年、日本ダンスフォーラム賞受賞。

⑩ 『95kg と 97kg のあいだ』 さいたまゴールド・シアター

演出：蜷川幸雄 作：清水邦夫



(C)Maiko Miyagawa

蜷川幸雄が新たな挑戦の場とする、55 歳以上の演劇集団、さいたまゴールド・シアターの最新作。

世界の巨匠・蜷川幸雄率いる 55 歳以上の団員による演劇集団さいたまゴールド・シアター。結成から 3 年を経て、はじめて本拠地である彩の国さいたま芸術劇場を飛び出し、東京・西巣鴨での遠征公演を行う。団員たちの実人生がにじみ出るような力演に加え、横田栄司ら客演俳優たちの迫真の演技、蜷川率いる若手カンパニーNINAGAWA STUDIO メンバーとの競演も見どころ。

公演日：3 月 18 日（水）～29 日（日） にしすがも創造舎

会場：にしすがも創造舎

3/18(水)	3/19(木)	3/20(金)	3/21(土)	3/22(日)	3/23(月)	3/24(火)	3/25(水)	3/26(木)	3/27(金)	3/28(土)	3/29(日)
19:00	19:00	14:00	14:00	14:00	休演	14:00	14:00	14:00	19:00	14:00	14:00

料金：全席自由 一般 4,500 円/栈敷席 3,000 円 学生 3,000 円(要学生証提示)高校生以下 1,000 円

チケットお取扱い：フェスティバル/トーキョー、ぷれいず、電子チケットぴあ、イープラス

埼玉県芸術文化振興財団チケットセンター取扱いあり tel 048-858-5511(10:00～19:00)【一般 4,000 円のみ取扱】

※F/T回数券(3 演目/5 演目)、F/Tパス、ペアチケットあり。12 月 18 日(木)前売り開始(詳細は p38)。

製作：財団法人埼玉県芸術文化振興財団

/ アーティスト・プロフィール

蜷川幸雄

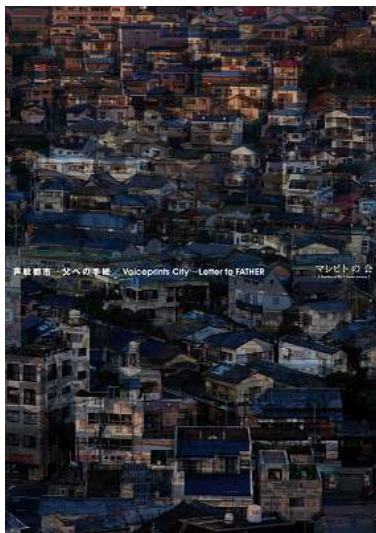


1935年、埼玉県出身。55年に劇団青俳に入団し、67年に劇団現代人劇場を創立。69年『真情あふるる 軽薄さ』で演出家デビュー。74年日生劇場『ロミオとジュリエット』で大劇場の演出を手掛ける。以後、日本を代表する演出家として話題作を次々世に送り出している。(財)埼玉県芸術文化振興財団芸術監督。彩の国さいたま芸術劇場で行われている「彩の国シェイクスピア・シリーズ(SSS)」の演出はもとより、ギリシャ悲劇から日本の古典・現代劇まで幅広く手掛け、数々の名舞台を世界に送り出している。近年の主な演出作品として『リア王』『さらば、わが愛 霸王別姫』『わが魂は輝く水なり』『道元の冒険』『ガラスの仮面』『から騒ぎ』『表裏源内蛙合戦』『冬物語』(2009年1月上演予定)など。映画監督としても活動しており、最新作『蛇にピアス』が2008年9月公開された。

⑪ 『声紋都市—父への手紙』

／Voiceprints City —Letter to FATHER』

作・演出：松田正隆(マレビトの会)



(C) Yujiro Sagami

**テーマは“父”。「ナガサキ」の実父への取材をもとに、
松田正隆が演劇における「歴史」の新しい記述に挑む！**

岸田國士戯曲賞、読売演劇大賞などを受賞し、国内外で活躍する劇作家・演出家の松田正隆率いるマレビトの会。本作では、シェイクスピアの『ハムレット』やカフカの『父への手紙』、そして松田の故郷であり初期作品から通底するテーマである「ナガサキ」に住む、実父への映像取材をもとに、現代の「父権」を問う。舞台芸術の可能性を切り拓く試みを重ねる、カンパニーによる2年ぶりの東京公演！

公演日：3月19日(木)～22日(日)

会場：東京芸術劇場小ホール1

3/19(木)	3/20(金・祝)	3/21(土)	3/22(日)
19:00	17:00	17:00	14:00

料金：全席自由 一般 3,500円/学生 3,000円(要学生証提示)、高校生以下 1,000円

チケットお取扱い：フェスティバル/トーキョー、ふれいず、電子チケットぴあ、イープラス

※F/T回数券(3演目/5演目)、F/Tパス、ペアチケットあり。12月18日(木)前売り開始(詳細はp38)。

製作：マレビトの会

共同製作：フェスティバル/トーキョー

助成：財団法人セゾン文化財団、京都芸術センター支援事業

/ アーティスト・プロフィール

松田正隆(マレビトの会)



(C) Yujiro Sagami

1962年、長崎県生まれ。90年～97年まで劇団「時空劇場」代表を務め、劇作・演出を手がける。96年『海と日傘』で岸田國士戯曲賞を受賞、ほか数々の賞を受賞。劇団解散後、フリーの劇作家として、青年団、文学座、演劇集団円などに作品を書き下ろしている。また、作品は海外でも翻訳・上演されており、『海と日傘』は日本戯曲として初めて韓国の第41回東亜日報演劇賞を受賞している。舞台戯曲の他、黒木和雄監督作品『美しい夏キリシマ』にて映画脚本を手がけ、『紙屋悦子の青春』は原作として映画化されている。

2003年より「マレビトの会」を結成し、劇作及び演出活動を開始。マレビトの会の主な作品に『島式振動器官』『パライゾノート』『アウトダフェ』『クリプトグラフ』などがある。現在、京都造形芸術大学 舞台芸術学科客員教授。

／ ⑫ 『ユートピア？』

作・演出：平田オリザ、アミール・レザ・コヘスタニ【イラン】、
シルヴァン・モーリス【フランス】



(c)Fred Kihn

**世界初、日・イラン・仏の共同製作が描き出す、
国際共同製作の最高到達地点「ユートピア？」。**

平田オリザ最新作『クリスマス・イン・テヘラン』と、その出演者たちの舞台裏を再現するアミール・レザ・コヘスタニ、そしてブザンソン国立演劇センター芸術監督のシルヴァン・モーリスが描くのは、なんとこれらの作品を制作する演出家の妄想。3ヶ国の演出家と俳優たちによる言語・文化の差異を超えたメタ・メタ演劇構造は、演劇を「ユートピア」に到達させ得るだろうか！？

公演日：3月23日(月)～29日(日)

会場：あうるすぽっと

上演時間：約2時間半

3/23(月)	3/24(火)	3/25(水)	3/26(木)	3/27(金)	3/28(土)	3/29(日)
19:00	19:00	19:00	19:00	14:00	14:00	14:00

料金：全席指定 一般 4,500円/学生 3,000円(要学生証提示)、高校生以下 1,000円

チケットお取扱い：フェスティバル/トーキョー、ふれいず、電子チケットぴあ、イープラス

※F/T回数券(3演目/5演目)、F/Tパス、ペアチケットあり。12月18日(木)前売り開始(詳細は p38)

製作：ブザンソン国立演劇センター

共同製作：フェスティバル/トーキョー

助成：キルチュール・フランス、国際交流基金(予定)

後援：フランス大使館

/ アーティスト・プロフィール

平田オリザ

日本の現代演劇界で、もっとも注目を集めている劇作家・演出家の一人。大学在学中に劇団「青年団」を旗揚げし、以来、一貫した演劇方法論によって、持続的な活動を続けてきた。平田の提唱する「現代口語演劇理論」という実践的で新しい演劇理論は、『現代口語演劇のために』などの著作にまとめられ、90年代以降の演劇界に強い影響を与え続けている。

また、平田自身が支配人を務める「こまばアゴラ劇場」は、青年団の本拠地であるばかりではなく、日本全国の劇団のほか海外の劇団との相互交流をはかる現代演劇の発信地となっている。また、フェスティバル・ディレクターを務めてきた大世紀末演劇展などを通じて、20年近くにわたって、地域の演劇を東京の観客に紹介してきた。さらに近年は、合同プロジェクトやワークショップを通じて、フランスをはじめ韓国、オーストラリア、アメリカ、アイルランド、カナダなど海外との交流も深まっている。

アミール・レザ・コヘスタニ(イラン)

劇作家、演出家。1978年イラン生まれ。16歳でシラーズの新聞でショート・ストーリーを発表。17歳で映画に夢中になり、映画の演出及び映画技術の勉強を始める。しばらくしてから映画を止める。96年 Mehr 劇団が彼のショート・ストーリーのもとで芝居を企画し、コヘスタニが演劇と出会うきっかけとなる。一年間俳優として Mehr 劇団に参加をした後、劇作に転向。2000年、22歳で、自らの2回目の戯曲『The Murmuring Tales』を演出し、第18回ファジル演劇祭(イラン)で5部門受賞。02年の『Dance on Glasses』は近年イランで最も議論を招き、成功した作品の一つとなりヨーロッパ各地で上演。また、05年の『Amid the Clouds』及び07年の『Recent Experiences』でヨーロッパ巡演。現在世界で最も注目する非西洋圏劇作家・演出家の一人。

シルヴァン・モーリス(フランス)

シャイヨー国立演劇学校卒業。アガト・アレクシ、フィリップ・アドリアン、ジャン＝ピエール・ヴァンサンなどの演出助手をつとめ、1992年より演出を始める。ドイツ戯曲のレパートリーに愛好を持ち、自らのカンパニーL'Ultime&Coでホルヴァート、カイザー、レンツ、トロレやハルムス等の作品を多く演出している。99年ジュヌヴィリエ国立演劇センターでセネカ(古代ローマの哲学者・劇作家)の悲劇『テュエステス』を演出し、高い評価を得、巡演した。2001年にアヴィニオン演劇祭にて『マクベス』(作:シェイクスピア)を発表。2003年よりブザンソン国立演劇センター芸術監督。近年では07年にE.T.A.ホフマンの『砂男』およびロアルド・ダールの『魔女がいっぱい』をあやつり人形芝居で創造している。08年当演劇センターにイプセンの『ペール・ギュント』を演出。

／ ⑬ 『転校生』

演出： 鮎屋法水 作：平田オリザ



(c)静岡県舞台芸術センター

**演劇・美術界で伝説的な話題を集める鮎屋法水が、
十数年の活動休止を経て演出を再開したセンセーショナルな復帰作、待望の再演！**

21人の女子高校生のために書いた平田オリザの戯曲『転校生』に、演劇界・美術界で伝説的な話題を集める鮎屋法水が SPAC - 静岡県舞台芸術センターの製作により挑んだ衝撃作の再演がついに実現。出演するのは、静岡県全域からオーディションで選ばれた女子高校生たち。ある高校の教室、いつもと変わらない日常に、突然ひとりの転校生が現れる…。単調な日常に潜む他者との出会い、人間の存在の不確かさが浮かびあがる。

公演日：3月26日(木)～29日(日)

会場：東京芸術劇場中ホール

上演時間：1時間50分

3/26(木)	3/27(金)	3/28(土)	3/29(日)
19:00	19:00	18:00	18:00

料金：全席指定 一般 4,500円(S席) 3,500円(A席) /学生 3,000円(要学生証提示)、高校生以下 1,000円

お取扱い：フェスティバル/トーキョー、ぷれいす、電子チケットぴあ、イープラス

※F/T回数券(3演目/5演目)、F/Tパス、ペアチケットあり。12月18日(木)前売り開始(詳細はp38)

製作：静岡県舞台芸術センター -SPAC-

/ アーティスト・プロフィール

鉛屋法水



(c) Yasuhide Kuge

演出家・美術家。1961 年生まれ。78 年、アングラ演劇の中心的存在だった唐十郎主宰の「状況劇場」に参加。84 年「東京グランギニョル」を結成し、カルト的な人気を博す。87 年「M.M.M」を立ち上げ、メカニク的な装置と肉体の融合による「スキン/SKIN」シリーズでサイバーパンク的な舞台表現を固める。90 年代は舞台から美術活動に移行しながらも、人間の身体に一貫してこだわり続け、輸血、人工授精、感染症、品質改良、化学食品、性差別などをテーマとして扱い、コラボレーション・ユニット「TECHNOCRAT」の一員として作品を制作。95 年、ヴェネツィア・ビエンナーレに「パブリック ザーメン」で参加するが、その後美術活動を停止。同年、ペットショップ「動物堂」を開設。2005 年「バングント」展で美術活動を再開。2007 年、静岡県舞台芸術センター主催の「SPAC 秋のシーズン 2007」にて平田オリザ作『転校生』の演出を手がけ、本格的な表現活動に期待が集まる。著書に『キミは珍獣(ケダモノ)と暮らせるか?』(文春文庫) などがある。

／ ⑭ 『演劇/大学 09 春』

演劇の未来を探るヒントは大学にあり？

大学で育まれた才能/思想/プロセスがぶつかり合う「演劇/大学」出現！

現在、演劇や舞踊を専門的に学ぶことができる大学・学科では、第一線で活躍するプロのアーティストが指導教官として学生たちとの作品づくりに取り組み、ユニークな成果をあげている。「演劇/大学」では、毎年授業の一環で制作される作品群を中心に、各大学で育まれた才能/思想/創作プロセスをより明確に示す数作品をフェスティバルに招聘し、集中的に上演。さらに上演後には学外の論客を迎えてディスカッションを行い、大学の枠を超えた交流と対話から、演劇創造の未来を探る。

公演日：3月25日(水)～29日(日)

会場：東京芸術劇場小ホール1&2

※参加大学および公演スケジュールは追ってHP上で告知

／ F/T 参加作品

F/T と同時期に開催される、トーキョー発の作品群。
都内各劇場、劇団等の協力により集結！

／ ⑮ 『パイパー』 野田地図第 14 回公演

作・演出・出演：野田秀樹(NODA・MAP)

赤土と氷河、天空には地球が……。1000 年後の火星では、何が起きていたのか？
野田秀樹率いる NODA・MAP の最新作、『パイパー』。

公演日：1 月 4 日(日)～2 月 28 日(土)

会場：Bunkamura シアターコクーン

舞台は 1000 年後の火星。人類の憧れ、希望の星だった火星へ移住する人々と密かに火星に移住した「パイパー」なる生物？ 機械？ 人間？ が、人類の夢と共に変貌を遂げる物語。火星で懸命に生きる姉妹役の松たか子、宮沢りえをはじめ、橋爪功ら実力派豪華キャストを迎え、遠い未来の火星が、2009 年の東京の劇場に出現する。時空を越えた壮大なスケールと、スリリングな展開で魅了する新たな人類の叙事詩が生まれる。

チケット情報等のお問合せ先：NODA・MAP 03-6802-6681

／ ①⑥ 『愛の渦』 ポツドール vol.18

脚本・演出：三浦大輔(ポツドール)

**小劇場界の鬼才・三浦大輔が描く、裏風俗店に集う男女たちの一夜。
第50回岸田國士戯曲賞受賞の問題作が、ロングランに挑む！**

公演日：2月19日(木)～3月15日(日)

会場：THEATER/TOPS

ロフト付き高級マンションに集う、見ず知らずの男女の乱交パーティーを描く衝撃的作品。サラリーマン、学生、保母…ごくふつうの「肉体関係者」たちが織りなす、グロテスクで精緻な人間模様。午前0時から5時まで繰り広げられる、性欲の宴をドキュメンタリータッチで描き出す。スキャンダラスで苦い、リアルを透徹した喜劇、待望の再演。

チケット情報等のお問合せ先：ポツドール 080-5487-3866

／ ①⑦ 『春琴』 世田谷パブリックシアター＋コンプリシテ共同制作

演出：サイモン・マクバーニー(イギリス)

**谷崎作品に共鳴した、イギリス人演出家マクバーニーが日本文化の本質に迫る。
初演で惜しめない賞賛を受けた話題作『春琴』、待望の再演！**

公演日：3月5日(木)～16日(月)

会場：世田谷パブリックシアター

谷崎潤一郎の『春琴抄』を、マクバーニーは人間模様・深層心理の部分を中心に掘り下げ、『陰翳礼讃』にも通じる日本人の価値観に迫る舞台として構想。文楽や歌舞伎といった伝統芸能の持つ様式美を取り入れながら、日本文化の本質に迫る本作は、国際共同制作ならではの新しい谷崎ワールドを豊かに描き出す。深津絵里、チョウソンハをはじめ、三味線奏者、小鼓奏者も演者として登場する、斬新な舞台にふさわしい実力派キャストも見どころ。

チケット情報等のお問合せ先：世田谷パブリックシアター 03-5432-1526

／ ⑱ 『The Rainy Table』 珍しいキノコ舞踊団 × plaplax

振付・構成・演出：伊藤千枝(珍しいキノコ舞踊団)
舞台美術・映像演出・メディア テクノロジー：plaplax

珍しいキノコ舞踊団 × アートユニット plaplax。
メディアアートとダンスの新たな地平を切り拓く。

公演日：3月19日(木)～22日(日)

会場：シアタートラム

日常の風景や仕草を取り入れたダンスで活躍する、珍しいキノコ舞踊団。影や香りを使ったインタラクティブアートで、国際的評価の高い plaplax。ポップなダンスと、親しみやすくスタイリッシュなメディアアート、そして大野由美子 (Buffalo Daughter) の音楽による初コラボレーション。山口情報芸術センター【YCAM】での滞在制作を中心に、ハイテク／アナログを越えたメディアアートとダンスの注目作。

チケット情報等のお問合せ先：世田谷パブリックシアター 03-5432-1526

／ ⑲ 『another BATIK』 BATIK 新作公演

構成・演出・振付：笠井 勲

2年ぶりの新作公演は舞踏家・笠井勲氏に振付を依頼。
BATIK の新たなる挑戦。

公演日：3月26日(木)～29日(日)

会場：世田谷パブリックシアター

BATIK 代表黒田育世が「深く畏怖の念を抱く方」＝舞踏家・笠井勲氏に「おこがましくも無謀なお願い」＝振付を依頼した新作／三部作。カンパニーとして更なる進化を遂げるためにも、様々なものを吸収するためにも、新たな刺激が必要と判断しての決意。黒田育世の、極限まで身体を酷使用する振付を経験してきた BATIK ダンサーにとっては全く未知の世界となる笠井ワールドへの挑戦が始まる。

チケット情報等のお問合せ先：ハイウッド 03-3320-7217

/ F/T プロジェクト

演目上演以外の関連プロジェクト。詳細は決まり次第 F/T ウェブサイト上に掲載します。

/ F/T シンポジウム

『今日の文化を再考する -米国、フランス、日本、三カ国の文化システムをめぐって』

2月4日(水)

東京芸術劇場中ホール

※日本語・フランス語通訳つき ※パネリスト等の詳細・お申込は HP から

フェスティバル/トーキョーのプレ・オープニングを飾る国際シンポジウム。膨大な実地調査をもとにアメリカの文化システムを鮮やかに論じた大著『超大国アメリカの文化カーン文化外交官による全米踏査レポート』(09年1月岩波書店より発売予定)を執筆したフランス人ジャーナリスト、フレデリック・マルテル、そして平田オリザら日本を代表する文化人らを論客に迎え、21世紀に可能な新しい文化システムの地平を探ります。

/ F/T ステーション

池袋西口公園に、F/T オリジナルのフェスティバル・ステーションが出現！F/T に参加するアーティストや出演者、スタッフ、そして観客が集う交流と対話の場。週末には野外にも拡張、伊藤キム・プロデュース「おやじカフェ」などパフォーマンスやカフェも出現し、フェスティバルを盛り上げます！詳細はHPにて。

/ F/T クルー

フェスティバル/トーキョーでは、学生や市民によるボランティアを募集します。詳細は HP にて。

F/T クルー活動例

舞台・制作、広報・ドキュメント班、アートプロジェクト班、劇場スタッフ班等

／ 提携事業

東京芸術見本市 2009

東京芸術見本市は演劇・ダンス・音楽など舞台芸術のマーケットです。実演ショーケースやブース出展を通して新しい作品を発見し、プロジェクトを立ち上げるきっかけをつくる「ネットワーク形成の場」です。一般の方も1日4,000円でご参加頂けます。

会期:2009年3月4日[水]～7日[土]

TPAMショーケース:2月28日[土]～3月8日[日]

会場:恵比寿ザ・ガーデンホール／ルーム ほか

主催:東京芸術見本市2009実行委員会

(構成団体:国際交流基金／財団法人地域創造／国際舞台芸術交流センター)

お問合せ

東京芸術見本市事務局

tel:03-5724-4660 tpam@tpam.or.jp www.tpam.or.jp

/ F/T チケット情報

F/Tパフォーマンス チケット 2008 年 12 月 18 日(木)前売開始

※F/T 参加作品は対象外

/ チケット取扱

フェスティバル/トーキョー(HPのみ) <http://festival-tokyo.jp>

ぷれいす(電話のみ) 03-5468-8113(平日 11:00-18:00)

電子チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード予約) <http://pia.jp/t> ※『サンシャイン 63』と『演劇/大学 09 春』は対象外

イープラス <http://eplus.jp> ※『サンシャイン 63』と『演劇/大学 09 春』は対象外

- ・指定席の場合、開演時間に遅れたお客様はご指定のお席にお座りになれない場合がございます。
- ・未就学児童のご入場はお断りさせていただきます。
- ・受付開始及び当日券の販売は開演 1 時間前、開場は 30 分前からとなります。
- ・チケットの払戻、観劇日の変更はできません。
- ・チケット料金には消費税が含まれます。

F/Tパフォーマンスを、選んで観る。全部観る。誘って観る。学生も観る。 フェスティバル/トーキョーならではのお得なチケットでお楽しみください。

※フェスティバル/トーキョー・ぷれいすのみ取扱い

/ F/T 回数券 選んで観る! ※お好きな演目を選んでご覧いただけます。(『サンシャイン 63』は対象外)

3 演目 ¥10,000 (¥3,333/枚)、5 演目 ¥15,000 (¥3,000/枚)

/ F/T パス(13 演目) 全部観る! ※全ての演目をご覧になれます。(『サンシャイン 63』は対象外)

¥30,000(¥2,300/枚)

※F/T 回数券、F/T パス(13 演目)のお取扱いについて

- ・2 月 13 日(金)18:00 まで販売(限定枚数)
- ・観劇演目・日時が未定でも購入できます。
- ・購入後は演目・日時のご予約を受付けます。
- ・予約なしでも当日ご入場出来ます。但し、満席時はご入場頂けない場合がございます。
- ・確実にご覧頂くためには演目・日時予約をお勧めいたします。
- ・回数券・パスはご本人様のみ有効です。

/ ペアチケット 誘って観る!

チケット 2 枚分の料金から 10%OFF でご購入頂けます。(例/¥4,500×2 枚=¥9,000→¥8,100)

※2 名同日時観劇のみお受けいたします。※当日券のご用意はございません。※『演劇/大学 09 春』は対象外です。

/ 学生料金 学生も観る!

学生 全演目 ¥3,000(要学生証提示) 高校生以下 全演目¥1,000

※東京芸術劇場中ホール公演は S 席 ※当日でもご購入できます。

/ Port B セット券 (『雲。家。』『サンシャイン 63』) ¥6,400 (¥3,200/枚)

※ぷれいすのみ取扱 ※2 月 13 日(金)18:00 まで販売(限定枚数)

3 演目	¥10,000 (¥ 3,333/枚)	F/T パス	¥30,000 (¥ 2,300/枚)
5 演目	¥15,000 (¥ 3,000/枚)	ペアチケット	10% OFF

／ メイン会場

フェスティバル/トーキョーは、東京都・豊島区・池袋を中心に、3つのメイン会場で開催されます。

／ 東京芸術劇場

(運営:財団法人東京都歴史文化財団)

東京芸術劇場は、東京都が都民のための音楽・演劇・歌劇・舞踊等の芸術文化の振興とその国際交流を図るため、平成2年10月に開館しました。施設として大ホール、中ホール、小ホール1、小ホール2ほか、会議室や展示ギャラリー等を運営しています。フェスティバルでは中ホールと小ホールを使用します。平成20年4月、演出家野田秀樹氏が芸術顧問に就任、今後は芸術監督に就任し芸術文化の創造振興拠点としての劇場の役割を強化していきます。



／ あうるすぽっと

(運営:財団法人としま未来文化財団)

あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター)は、演劇を中心とした舞台芸術の発信・創造・育成のための劇場として、平成19年9月に開館しました。301席のコンパクトで臨場感あふれる、観る人にも、創る人にも親しまれる劇場です。劇場プロデュース公演や提携公演などを中心にした公演プログラムと、ワークショップやレクチャーなどの育成プログラムを展開し、発信する劇場として注目されています。



／ にしすがも創造舎

(運営:NPO法人アートネットワーク・ジャパンとNPO法人芸術家と子どもたち)

にしすがも創造舎は、中学校の廃校を転用し、文化芸術創造の拠点として、平成16年8月に開館しました。稽古場施設を中心に、より開かれた形をめざしアートと地域を結ぶ多様なアートプログラムを展開しています。元体育館を転用した200席の特設劇場は、東京国際芸術祭(TIF)のメイン会場として、開館当初からアーティストの活動を支援してきました。フェスティバル/トーキョーでも、可動する空間の特性を生かし、国内外の演目を上演予定です。



/ フェスティバル/トーキョー 組織委員

池田弘一	アサヒビール株式会社代表取締役会長兼 CEO
扇田昭彦	静岡文化芸術大学教授
永井多恵子	社団法人国際演劇協会 (ITI/UNESCO) 日本センター会長
蜷川幸雄	演出家
野村萬	狂言師
林省吾	財団法人地域創造理事長
福原義春	株式会社資生堂名誉会長

(五十音順)

/ フェスティバル/トーキョー主催

東京都

財団法人東京都歴史文化財団

フェスティバル/トーキョー実行委員会

豊島区、財団法人としま未来文化財団、NPO 法人アートネットワーク・ジャパン

名誉実行委員長	高野之夫	豊島区長
実行委員長	市村作知雄	NPO 法人アートネットワーク・ジャパン 会長
副委員長	河原勝広	豊島区文化商工部長
委員	上野仁志	豊島区文化商工部文化デザイン課長
	關愼吾	豊島区文化商工部文化デザイン課文化施策担当係長
	望月治男	財団法人としま未来文化財団 常務理事/事務局長
	荻原美智子	財団法人としま未来文化財団 部長
	蓮池奈緒子	NPO 法人アートネットワーク・ジャパン 代表
	相馬千秋	NPO 法人アートネットワーク・ジャパン プログラム・ディレクター
監事	東澤昭	豊島区総務部総務課長事務取扱総務部参事
	田代富保	社団法人企業メセナ協議会 事務局長

/ フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局

プログラム・ディレクター	相馬千秋
事務局長	蓮池奈緒子
事務局長補佐	宮崎あかり
広報	及位友美、ハッセル、タラ・石塚
制作	植松侑子、クラウドハイム・ウルリケ、武田知也、辻奈都子
インターン	三井亜久里、堀江紗恵

技術監督	寅川英司
宣伝美術	アジール
ウェブディレクション・デザイン	(株)Synchronicity
編集	大堀久美子
票券	(有)ぷれいす
PR	(株)コミュニケーションデザイン
顧問弁護士	福井健策

お問合せ

フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局

〒170-0001 東京都豊島区西巣鴨 4-9-1 にしすがも創造舎 NPO 法人アートネットワーク・
ジャパン内

TEL 03-5961-5202 / FAX 03-5961-5207 toiawase@anj.or.jp <http://festival-tokyo.jp>